

新しい町

小川未明

青空文庫

もくら、もくらと、白い雲しろくもが、大空おおぞらに頭あたまをならべる季節きせつとなりました。遠くつづく道みちも、りようがわの町まちも、まぶしい日の光ひひかりをあびています。戦争せんそうのためやけたあとにも、新しいバラックができ、いつしか昔むかしのようなにぎやかさをとりかえし、この先さき発展はつてんをにおわせて、なんとなく、わかわかしい希望きぼうを感じかんずるのでありました。

道みちばたの露店ろてんは、たいてい戦災せんさい者しやか、復員ふくいんした人ひとたちの、生活せいかつをいとなむのであります。勇吉ゆうきちは、おかあさんと、毎日まいにちここへでて、ろうそくや、マッチや、うちわなどをならべて、あきなっていました。

その前まえを通とおる人ひとの中なかには、よごれた服ふくをきて、まきぎやはんをはき、おもそうなりユツクをしい、いま戦地せんちから、もどつたばかりというふうな人ひともありました。そうかと思おもうと、はでな着物きものをきて、美しい日ひがさをさす女おんなの人ひともありました。

きようは、勇吉ゆうきちひとりで、露店ろてんへでていました。そして、おとうさんがまだ生いきていてひよっこりかえつてくるのではないかと、空想くうそうにふけりながら、あてもなく町まちの右みぎや左ひだりをながめていました。

かれのとなりには、おじいさんが、げたの店みせをひろげていました。そのおじいさんは、

なにかとせわをしてくれたり、うちとけて話をしてくれる、したしみぶかい人でした。だ
まっているときは、よくおじいさんは、いねむりをしていました。しかし、ねむりきつて
いるのではないから、なんでも、よくわかっているようです。

「おじいさん、そこへへび屋ができましたね。」と、勇吉は話しかけると、

「もと、あちらの角にあつたのが、やけたので、こっちへ、移ってきたのだろう。」と、

おじいさんは、目をとじたままで、こたえました。

「前には、いろんな生きたへびが、びんの中に、入っていましたね。こんどは、生きたの
がいませんよ。」

「そうかい、いなくなつたか。」と、おじいさんはいって、だまってしまいました。それ
は、ねむつてしまつたのでなく、考えごとにふけたからでした。

おじいさんは、そのへび屋が、まだ、あちらの角にあつてやけない前には、よく店さき
に立つて、びんにはいつている赤い目をした青いへびや、頭の大きい黒いへびをながめな
がら、それらのどくへびがすんでいるジャングルで病死した、おいのことを思つたので
した。

「あの子も、戦争さえなければ、死ななかつたのに。」

ふと、おじいさんは、いまもまたそう思^{おも}つて、目^めをあけると、勇吉^{ゆうきち}が、
 「おじいさん、南方^{なんぽう}からは、もうみんな、復員^{ふくいん}してしまつたでしょうね。」と、きいたのでした。

「なんでもそんな話^{はなし}だな。」

「やはり、うちのおとうさんは、死^しんでしまつたのか。」と、勇吉^{ゆうきち}は、つぶやきました。
 「ううん。」と、おじいさんは、同^{どう}情^{じょう}するようになって、勇吉^{ゆうきち}をば見^みました。

「きようは、おまえさんひとりなのか。おかあさんは、どうなさつた。」

「弟^{おとうと}がかぜをひいたので、休^{やす}んだのです。」

「それはいけないな。今^{こんど}度の戦^{せんそう}争^{そう}は、どれほど人^{ひと}を泣^なかしたか。まだかえらない人^{ひと}にも
 うひとり、思^{おも}いだす人^{ひと}があるよ。」と、おじいさんはいいました。

「それは、どんな人^{ひと}ですか。」

「冬^{ふゆ}の寒^{さむ}い晩^{ばん}のことだつた。露^ろ店^{てん}の射^し的^{てき}に、おかみさんがあかんぼうをだいて、カンテ
 ラのそばにすわつていた。そこへかくぼうをかぶつた、学^{がく}生^{せい}さんがやつてきて、じよう
 ずに、ポン、ポンたばこをうちおとしたのだ。はじめのうちは、うまいなと思^{おも}つて、見^み
 いたが、しまいに、おかみさんがきのどくになつて、この女^{おんな}の主^{しゅ}人^{じん}も、たぶん戦^{せんそう}争^{そう}に

いつているのだろうと思うと、だまっていられなくなつて、『学生さん、すこしさつするものだよ。』といった。すると、学生さんはふりかえつて、『おじいさんしんぱいなさんな、ぼくは、一つだけもらつて、あとはおいてゆきますよ。こうしてあそぶのは、今夜だけですからね。』といった。わしは、おどろいて、『えつ、今夜だけ。』とたずねると、『ぼくは飛行兵を志願したので、あす南方へ出発するのです。』といったが、たぶん、あの学生さんはかえつてこまいと思つたのさ。」と、おじいさんは、まだだまつてしまいました。

勇吉は、さつきからおじいさんのだまつていた心持ちが、わかるような気がしました。た。

あちらへ、赤い風船球を売る屋台ができました。また、金魚売りが、荷をおろしていました。まわりへこどもらが、集まっています。その風景は、今も昔と、すこしの変わりもありません。ただ、ぼくや正ちゃんがあの中なかにいないだけだと、勇吉は思つたのでした。

ここへ、店を出してから、じき一年になるが、毎日待つても、おとうさんはかえらな**い**ばかりか、仲よしの正ちゃんまでとおらないのが、勇吉には、たまらなくさびしく感

じられました。

まれに、おかあさんを知る人が、通りかけて、

「まあ、こんな、お小さいのに。」と、自分を見ていうと、おかあさんまでが、

「いまから、くろうさせたくないのですが。」と、答えるのです。勇吉には、それがいちばん悲しいのでした。そこへいくと、となりにいる、おじいさんは、

「なに、男だものな。いまから、強くならなければ。」と、はげましてくる。それは、どんなに自分を、元気づけたかしのれないと、勇吉は思いました。かれは、きゆうに、おじいさんがしたわしくなつて、

「ねえ、おじいさん、ごらんなさい。赤い風船球は、きれいでしよう。」と、話しかけたのでした。すると、おじいさんは、顔をあげて、

「おお、あれか。なるほどきれいだな。わしは、目がかすんで、よくわからぬが、なにかほかにもついているようだな。」といました。

「風車に、旗に、風鈴なんかですね。」

「そうかい、子どものほしがるものばかりだ。」

つぎの日には、もう勇吉の弟の病気がなおつたので、おかあさんは、露店へ出てい

ました。

とき色の雲が、町のやねを見おろす午後のごことであります。

「さつきから、ゴロ、ゴロいつているが、夕立がくるらしい。」と、おじいさんがいうと、

「いえ、どこか遠くで、工事をしているんです。毎日、あんな音がきこえます。」と、勇吉は答えました。

「ひるまは、トタンがやけるので、バラックではやりきれません。」と、勇吉のおかあさんがいいました。

こんな話をしていたとき、あちらから、せの高い男が、おどるような足どりで、なにかつぶやきながら、きかかりました。通る人は、みんなその方を見ていました。やはり戦闘帽にまきぎやはんをして、復員兵らしく、一つ一つ露店をのぞきながら、こちらへ近づき、おじいさんの店の前までくると、

「ここは、げただな。げたばかりか。こんなもの食べられない。」といいました。

その男の顔は、日にやけて黒く、目が光って、ひげは、やみあがりのようにのびていました。こんどは、勇吉の店の前に足をとめて、

「ここは、ろうそく、マッチ、かやりせんこう、色紙、みんなたべられないものばかりだ。」と、ひとりごとをしてから、トテ、トテ、トテ、トツテ、トツテ、ターと、口でらっぱのまねをしました。さつきから、そのようすを見ていたおじいさんが、

「にいさんは、どちらから、おかえりですか。」と、ききました。

「おれかい。ニューギニアだ。おれはへびもたべたし、とかげも、青虫も、なんでもたべた。まだ、ろうそく、マッチは、たべなかつたよ。」

こうまじめにいうので、だれもおかしいと笑うものはありませんでした。

トテ、トテ、トテ、トツテ、トツテ、ター、男はらっぱの音をくりかえしながら、あちらへ去りました。おじいさんは、その後ろすがたを見おろして、ためいきをつきました。

「おきのどくに、気がへんなんですね。」と、勇吉のおかあさんがいうと、

「戦争が、わるいんだ。」と、おじいさんは、こたえて、こちらへむきなおり、

「勇ちゃんは、はやく大きくなつて、かわいそうな人たちの、力になっておやり。」といいました。

勇吉は、目にいっぱいなみだをためて、だまつてうなずきました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 13」講談社

1977（昭和52）年11月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「赤い雲のかなた」小峰書店

1949（昭和24）年1月

初出：「幼年クラブ」

1947（昭和22）年8月

※表題は底本では、「新《あたら》しい町《まち》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2018年8月28日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<https://www.aozora.gr.jp/>）で作ら

れました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

新しい町

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>